

第 33 回酸性雨東京講演会
大気－森林間の炭素および窒素交換

主催：大気環境学会関東支部大気沈着部会

共催：大気環境学会酸性雨分科会

日時：2022 年 6 月 16 日（木）14:00～17:00

場所：オンライン開催

【プログラムおよび概要】

1. 北海道北部の森林の炭素循環

高木健太郎(北海道大学)

森林群落の持つ CO₂ 固定能力は、気候・土壌帯や種構成、履歴により大きな幅を持つ。人為や自然の攪乱によって CO₂ の放出源となりうることも明らかにされているものの長寿命の森林を対象にして、攪乱影響を長期定量的に観測している例は限られている。道北部に位置する北海道大学天塩研究林では、2001 年より CO₂ フラックス観測を行っており、森林伐採やその後の植林活動が森林の炭素収支に与える影響を評価している。一方で研究林全域 (225 km²) の森林のバイオマスと 10 年間の変化を航空機リモートセンシングによって評価し、バイオマスの空間分布と森林タイプや立地環境との関係について解析を行っている。本講演では、これらの長期・大規模観測により明らかになった結果を紹介する。

2. 大気－森林間におけるガス・粒子状反応性窒素の交換

松田和秀, 徐 懋(東京農工大学)

人間活動により大気中に過剰に排出された反応性窒素 (Nr: reactive nitrogen) は、地表面へ沈着することにより富栄養化を引き起こし、生物多様性の減少の要因となる。ガス・粒子状物質の沈着面としての森林は、他の沈着面に比べてきわめて複雑な構造をもち、その沈着メカニズムは十分に解明されているとは言えない。さらに、近年の研究では、森林からの硝酸ガスやアンモニアの放出も観測されており、物理的なアプローチだけでなく、化学的、生物学的なアプローチも取り入れた総合的な研究が望まれる。本講演では、演者らが森林において実施してきたガス・粒子状 Nr のフラックスおよび鉛直プロファイル観測の結果を示し、大気－森林間におけるこれらの交換メカニズムについて得られた知見を紹介する。

参加費無料

参加申込：6 月 10 日（金）までに以下の申込フォームによりお申し込みください。直前になりましたら、申込まれた方に当日のオンライン情報をお知らせいたします。

申込フォーム <https://forms.office.com/r/w9B3vC8DYL>

<問合せ・申込先>

大気沈着部会事務局 伴 聡美（日本環境衛生センター）

E-mail: satomi_ban@jesc.or.jp